

第7回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場建設検討委員会 議事要旨

日時：令和 7 年 3 月 11 日（火） 13:30～16:30

場所：西郷ニューホープセンター（美郷町）

■ 出席者

(1) 委員

土手 裕 （宮崎大学工学部教授）
 原田 隆典 （宮崎大学工学部名誉教授）
 大榮 薫 （宮崎大学工学部准教授）
 佐伯 雄一 （宮崎大学農学部教授）
 山田 大志 （NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク理事長）
 後藤 充 （美郷町西郷区長会長）
 道口 光一 （美郷町花水流区区長）
 小野 圭一 （美郷町花水流区）
 松本 恵喜 （美郷町花水流区）
 小野 和久 （美郷町小川区）

(2) 事務局

奥原 孝雄 （日向市 環境政策課 課長補佐）
 小林 英彦 （門川町 環境水道課 課長）
 黒田 和幸 （美郷町 町民生活課 課長）
 中田 芳樹 （美郷町 町民生活課 主幹）
 中原 雅則 （諸塚村 住民福祉課 課長）
 黒木 拓実 （諸塚村 住民福祉課 主幹）
 黒木 治実 （椎葉村 税務住民課 課長）
 黒木 真 （広域連合 事務局長）
 中田 千恵美 （広域連合 局長補佐兼総務係長）
 吉玉 賢司 （広域連合 業務第 1 係長）
 日高 昭洋 （広域連合 業務第 2 係長）
 黒木 俊介 （広域連合 業務第 1 主任技師）

(3) コンサルタント

平川 猛 （株式会社建設技術研究所）
 長谷川 清史 （株式会社建設技術研究所）
 和田 崇史 （株式会社建設技術研究所）
 池田 勇太 （株式会社建設技術研究所）
 神谷 亘 （株式会社建設技術研究所）

（以上、敬称略）

■ 内容

- 1 開会
- 2 あいさつ（委員長）
- 3 協 議（議事進行：委員長）
 - （1）前回委員会の確認
 - （2）地質調査結果について
 - （3）浸出水処理計画について
 - （4）次期広域最終処分場基本計画（案）について
 - （5）今後のスケジュールについて
 - （6）その他
- 4 閉会

■ 配付資料

- 資料1：第6回建設検討委員会議事要旨
- 資料2：地質調査結果
- 資料3：浸出水処理計画について
- 資料4：次期広域最終処分場基本計画（案）
- 資料5：次期広域最終処分場基本計画（案）協議事項抜粋版
- 資料6：今後のスケジュールについて

1. 開会

○配布資料の確認

2. あいさつ

○土手委員（委員長）より挨拶

3. 協議事項

(1) 前回委員会の確認

○事務局より【資料1】に基づき説明。

- 委員：P4の地質調査の同意について確認させていただきたい。
- 事務局：調査については地権者に対して口頭説明及び文章の送付を行った。意見がなかったため、調査を進めた。今後調査を行う上で承諾書を受け取ったほうがよいという意見を頂いたので、今後は承諾書を頂くことを想定している。

(2) 地質調査結果について

○事務局より【資料2】に基づき説明。

- 委員：委員会資料として理解はできるが、専門でないものがあるため、もう少しわかりやすい説明にしてもらえないか。
- 事務局：地域協議会は住民の方が主体となるため、わかりやすい資料を作成して説明する。
- 委員：地域協議会資料は委員にも展開してほしい。
- 委員：地すべりの場所はどこにあるか説明してほしい。
- 事務局：図面の右上側にある赤矢印の場所が地すべり地形である。基本構想段階では防災調整池が設置される計画であったが、今回別の場所に移動させた。
- 委員：地すべり地形はそのままにしておくのか。
- 事務局：現時点では対応は不要と判断している。今後も調査は継続しているため、地すべり地形に動きがあれば対策を検討する。

(3) 浸出水処理計画について

○事務局より【資料3】に基づき説明。

- 委員：脱塩施設の有無について、塩の発生濃度と大内原ダムによる希釈はどの程度か。
- 事務局：溶出試験結果では2万mg/L。大内原ダムとの水量比較では流入量は0.006%である。
- 委員：表8は○と△の違いは何か。

- 事務局 : ○は除去可能であるが、△であれば低減はできるが除去はできないという表現が記載されている。
- 委員 : pH 比較的高いが、どの工程で下がるのか。
- 事務局 : 凝集沈殿で投入する薬剤が働く有効域があるため、薬剤を投入して pH 調整を行う。
- 委員 : 脱塩処理は塩化物イオンを除去する施設となると思われるが、塩化物イオンに着目する理由は。
- 事務局 : 埋立物は焼却灰が主体となる。焼却灰は 1000℃程度で焼却されるが、塩化ナトリウムは融点が約 1500℃であり、焼却処理では除去できずに残留するためである。
- 委員 : 放出する時に局所的な影響が出ることを懸念される。
- 委員 : 下流側での水の農業利用はないのか。
- 事務局 : 直下流はない。
- 委員 : 表 6 重金属類について、日向市は検出されないこととしているが、今回は基準値以下と緩くしている理由はあるのか。
- 事務局 : 日向市が平成の初期に建設されている。検査の量ることができる下限値が技術向上により下がっており、微量でも検出できるようになっているためである。
- 委員 : 脱塩処理はどのようなメーカーなのか。
- 事務局 : 既存の水処理メーカー複数社にヒアリングしている。
- 委員 : 熊本の事例の事業費は把握しているのか。
- 事務局 : 熊本の脱塩施設のみの事業費は把握していない。原水濃度等の設定が異なるため、同じ事業費にはならない。
- 委員 : 再利用すると記載があったが、処理水の再利用は行わないのか。
- 事務局 : 散水への再利用は想定していない。

(4) 次期広域最終処分場基本計画（案）について

○事務局より【資料 4】【資料 5】に基づき説明。

- 委員 : 切土や盛土によって生じたのり面の保護はどのように考えているか。
- 事務局 : 植生等による保護を考えている。
- 委員 : 飲用水はどのように考えているか。
- 事務局 : 雨水及び地下水を利用することを考えている。水道を引いてくることは考えていない。
- 委員 : 周辺環境のモニタリング頻度は。
- 事務局 : 水のモニタリングは指針等に基づいて実施する。悪臭、騒音・振動、粉じんは問題があった場合に実施する。

(5) 今後のスケジュールについて

○事務局より【資料 6】に基づき説明。

委員 : 意見なし。

(6) その他について

○事務局より説明。

委員 : 資料をもう少し早く送付してほしい。

事務局 : 今後は十分注意して対応する。

委員 : 7月に基本計画の報告書の報告があるが、各関係協議はされているのか。

事務局 : 検討員会前に関係市町村とは事前協議を行っている。正副連合長会は検討委員会後に実施する。議会は、7月議会で報告する予定である。国や県は補助金の関係で届出を行うが許認可はない。

4. 閉 会

〔了〕